

5日 土曜

ルカ



10:1 その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりすべての町や村へ、ふたらずつ先にお遣わしになった。

10:2 そして、彼らに言われた。「実りは多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。

10:3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り出すようなものです。

10:4 財布も旅行袋も持たず、くつもはかずに行きなさい。だれにも、道であいさつしてはいけません。

10:5 どんな家にはいっても、まず、『この家に平安があるように。』と言いなさい。

10:6 もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、その人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに返って来ます。

10:7 その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。

10:8 どの町にはいっても、あなたがたを受け入れてくれたら、出される物を食べなさい。

10:9 そして、その町の病人を直し、彼らに、『神の国が、あなたがたに近づいた。』と言いなさい。

10:10 しかし、町にはいっても、人々があなたがたを受け入れないならば、大通りに出て、こう言いなさい。

10:11 『私たちは足についたこの町のちりも、あなたがたにぬぐい捨てて行きます。しかし、

神の国が近づいたことは承知していません。』

10:12 あなたがたに言うが、その日には、その町よりもソドムのほうがまだ罰が軽いのです。

10:13 ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちの間に起こった力あるわざが、もしもツロとシドンでなされたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰の中にすわって、悔い改めていただろう。

10:14 しかし、さばきの日には、そのツロとシドンのほうが、まだおまえたちより罰が軽いのだ。

10:15 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスにまで落とされるのだ。

10:16 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾ける者であり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒む者です。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒む者です。」

ここに記されている派遣は、イエス様が行く前に遣わされるのですから、伝道であり、または伝道のための備えです。それは今の私たちの働きでもあります。ここに大切な原則があります。以下にみましょう。

収穫のための働き人を送ってくださるように祈る…私たちもそのために期待して祈りましょう。狼の中に小羊を送り出す…クリスチャンも弱い存在ですから、主の力に頼りましょう。〇〇も持たず…見えるものに頼るのではなく、主に頼りましょう。平安の子がいたら…福音を受け入れる備えができて人と出会えるように祈りましょう。家から家へと渡り歩いてはいけません…それは楽しいものであるかもしれませんが、目的は救いで

すから、その人が拒否したときには次の人に行きます。優先順位が大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

